

武田(生光学園高) P.O制す

シヨットに力強さと正確さ

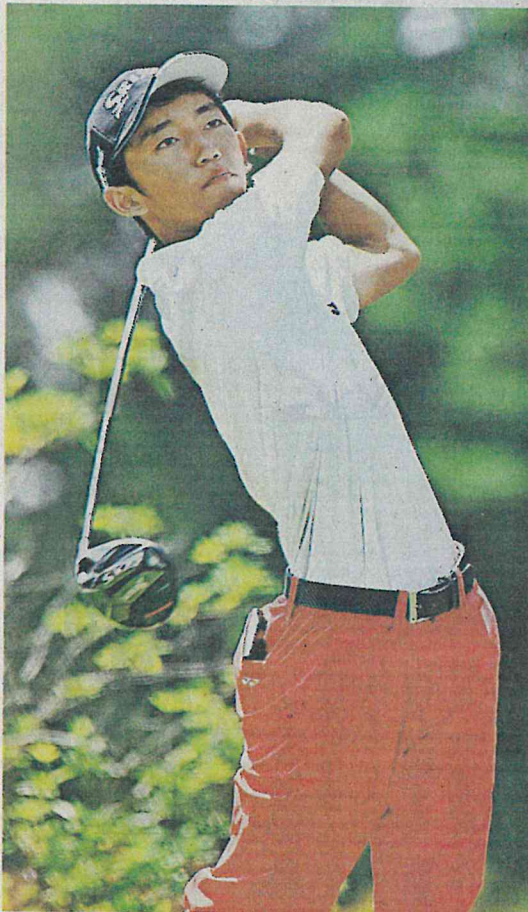
15~17歳の部

とのプレーオフ(P.O)を制し、初の頂点に立った。このほかの徳島県勢は、15~17歳の部男子の濱淵裕生(生光学園高3年)が通算9オーバー、222で56位。同女子の岡里音(生光学園高2年)が通算5オーバー、224で66位だった。(1面参照)

18日に埼玉県霞ヶ関CCなどで最終日が行われたゴルフの日本ジュニア選手権は、15~17歳の部の男子(7361名、パー71)で、イーブンパーで回った武田紘汰(生光学園高1年)が、通算208で並んだ大嶋港(関西高)、高田圭一郎(作陽学園高)

日本ジュニア選手権

ゴルフ



日本ジュニア選手権で優勝した生光学園高の武田。埼玉県の霞ヶ関CC(日本ゴルフ協会提供)

- ◇1位と徳島県勢
- 【男子】15~17歳の部(7361名、パー71)
 - ①武田紘汰(生光学園高) 208(70、67、71、37)
 - ②濱淵裕生(生光学園高) 222(71、76、75、71、37、38)
 - ▽12~14歳の部(7020名)
 - ①大西翼(兵庫教大付中) 207(72、68、67、35、32)
 - ②中村心(滋賀・ECC学園高) 202(70、68、64、31、33)
 - ③岡里音(生光学園高) 224(75、73、76、38、38)
 - ▽12~14歳の部(6479名)
 - ①若永杏奈(兵庫・塚口大) 172(69、68、33、35)
 - ②214(71、69、68、33、35)

3人によるプレーオフ1ホール目で1人が脱落し、迎えた2ホール目。武田(生光学園高1年)は約1.5分のバーディーパットを沈めてもう1人を振り切ると、右手で力強くガッツポーズした。「緊張はあった。でもここまで来たので勝ちたかった」と喜んだ。最後まで力強く、正確なシヨットができた。2日間、トップを譲らなかつた大嶋(岡山・関西高3

年)とのプレーオフ2ホール目(パー4)。まずはドライバーシヨットがフェアウェイ真ん中の300ヤード近くを捉えた。58度のウエッジを使った2打目はピン横にびたり。先に大嶋がボギーをたたき、2パットでも優勝が決まる中、鮮やかなバーディーで締めくくった。第1日は4位発進すると、第2日はティンシヨットが安定して2位に浮上。当初は来年大会のシ

ード権を得られる10位以内を目指していたが、最終日を前に初めて「優勝を狙おうと思った」。前半アウトはサードシヨットが乱れるなど1オーバー。後半インは粘って1アンダーでまとめた。藍住東中時代は陸上の中長距離選手としても活躍し「二刀流」で知られた。ゴルフだけに絞るこ



優勝トロフィーを手にする武田(生光学園高提供)

とを決め、今春、生光学園高に進み、ゴルフ部に入った。打ちっ放しや練習ラウンドに加え、筋力トレーニングも重ねた。高橋監督によると入学時に約270ヤードだったドライバーの平均飛距離は10~20ヤードアップ。今大会もその成果を発揮した。7月には米国であった世界ジュニア選手権の団体で準優勝するなど国内外の大会に出て実績を挙げ、経験を積んできた。個人でプレーしていた中学までと違い「ゴルフ部の仲間と励まし合って練習するのが楽しい」とあどけなさを残す15歳。主催者推薦で出る下部ツアーABEMAでの予選通過を次の目標とする。「自分を強いと思ったことはない」。謙虚に自らと向き合いながら前進していく。

(木村恭明)